

0・1・2歳児の初めてのお話えほん

ひかりのくに

プエパオ

あそびのえほん テーマ：自動車

『こぶたの ブーブ』

5領域
との
関わり

人 言 表

指導計画事例 ・ 臨場感を楽しむ



ねらい 活動内容 環境や援助 からもご活用ください。↓

動物が見えるページ

ねらい

動物の特徴に気付き、
当てっこを楽しむ。

活動内容

・ 次に出てくる動物を
予想して楽しむ

環境や援助

* 車が進むと、ページの右端に、次に乗ってくる動物の一部が見えているので、「次は誰かな？」などことばかけをして、気付きさせる。

長〜いお鼻が見えるね。誰かな？



ゾウさん！



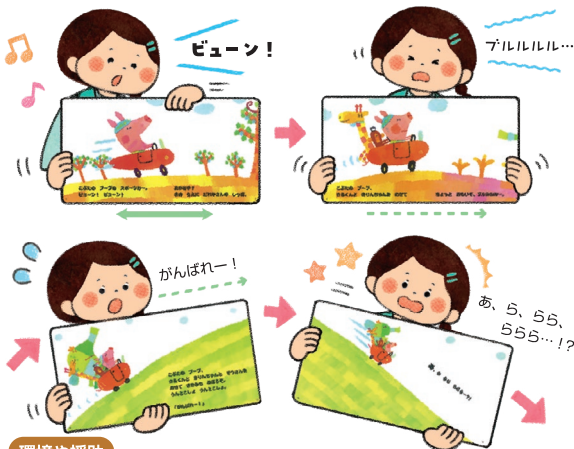
車が進むページ

ねらい

車の動きに注目し、
臨場感を味わう

活動内容

・車のスピードを感じて楽しむ



環境や援助

*初めは弾むように元気よく、スピードが遅くなってきたら重そうに力を込めて読むなど、緩急をつける。

*重くなった車が、下り坂でスピードを上げながら一気に下るところでは、絵本を傾けたり大きく動かしたりして、緊迫感を出す。

プチパオ読んで

プチパオで
つながる
園と家庭

幸せホルモンプラス

おうちでプチパオを楽しむポイントをご紹介します。
コピーしたり、切ったりしておたよりなどにお使いください！

絵本の読み聞かせにとっていくつかのポイントがあります。ふれあいの点からお勧めしたいのは、子どもを膝に乗せてする読み聞かせです。どんな内容の絵本でも、子どもはパパママの膝やお腹にしっかりと触れているので、安心して楽しむことができます。そうした安心した楽しい心のふれあいによって、オキシトシンはさらに分泌されます。

ビューン！



キャー！



出発しますよ～
乗ってください！

は～い！

8月号 ふれあい遊び「おひざで ビューン！」



8月号では子どもを膝の上に乘せて読んでみましょう。スポーツカーに乗って進む時には、「ビューン」「ブルルル」といった文章を読みながら、子どもを乗せた膝を軽く揺らしてみると、まるで車に乗っているようなライブ感があり、ふれあいも深まるでしょう。

坂道を重そうに登る時には、子どもを乗せたまま上体を後ろに傾けてみましょう。坂道を下るときは逆に上体を前のめりにしてみましょう。

また読み始めるときは、車（パパママの膝）に乗る動作、降りる時には車（パパママの膝）から降りるようにしてみると、さらにライブ感も高まりますよ。

幸せホルモンとは

オキシトシンは『幸福ホルモン』とも呼ばれ、親子のふれあいをするときにも子どもにもたくさん分泌されるホルモンです。その作用は、大切な親子の愛着のきずなを築いたり、ストレスを小さくしたり、睡眠の質を高めるなど様々な効果があります。



山口 創

桜美林大学リベラルアーツ学群教授。専攻は健康心理学、身体心理学。幸せホルモンとふれあいの関係について研究している。「幸せになる脳はだっこで育つ」（廣済堂）など著書多数。「朝イチ」

「世界一受けたい授業」などへの出演、各種雑誌媒体の監修も行っている。